



〈表紙写真〉

【首里金城町石畳道】
(那覇市)

首里台地の南斜面に位置する石畳の坂道で、日本の道100選のひとつです。

1522年、第二尚氏時代第三代国王の尚真王が、守礼門から真玉橋まで続く真珠道として建造したものです。

真珠道の大半は沖縄戦により破壊されましたが、首里金城町の石畳道は奇跡的に戦禍を免れ、約500年前の姿を現在に伝えています。

全長約300mで、20～50cm程度の琉球石灰岩を乱敷きにし、表面を小叩きにして滑らないような工夫がなされています。

周辺には、古い石垣や沖縄特有の赤瓦家が並び、古都首里の面影を残しています。

群星 【むりぶし】 Muribushi

C O N T E N T S

特集

01 地域の目「沖縄の可能性に向かって」レキオファーマ株式会社 代表取締役／奥 キヌ子

02 経済産業部 笑顔と心のやすらぎ 第2回沖縄国際映画祭2010

04 経済産業部 「沖縄地域経済産業ビジョン-中間報告-」について

06 運輸部 バリアフリー社会の実現に向けて

仕事の窓

08 仕事の窓① 総務部 あなたの地域・職場にお伺いします！

10 仕事の窓② 財務部 法人企業景気予測調査

12 仕事の窓③ 開発建設部 平成21年の水事情の概況

14 仕事の窓④ 財務部 二千円札10周年パネル展

15 仕事の窓⑤ 運輸部 地域公共交通活性化・再生セミナー

16 仕事の窓⑥ 運輸部 「不正改造車の排除運動」
「ディーゼルクリーン・キャンペーン」の実施

局の動き

17 財務部 第25回財務行政モニター会議を開催

農林水産部 戸別所得補償制度モデル対策の加入受付中！

18 なかゆくい ※シリーズ① 一ダムの役割を知っていますか？ー

20 内閣府だより 沖縄科学技術大学院大学新研究施設開設

21 お知らせ

「ゆいレール」 いろいろ 再発見！

#6

ゆいレールの 「これから」

開業から7年が経過し、那覇市内の移動に欠かせない存在となったゆいレール。最終回となる第6回は、ゆいレールの「これから」の動きをご紹介します。

○ゆいレール延伸

現在のゆいレールは、那覇空港駅から首里駅を結ぶ15駅、営業キロ12.9kmで運行していますが、平成20年3月の沖縄都市モノレール延長検討委員会が推奨案として決定された「浦添ルート案」では、首里駅から浦添市前田のJICA沖縄国際センターを経由して沖縄自動車道西原入り口付近までの延長距離約4.1キロが計画されています。沖縄県は、那覇市、浦添市、沖縄都市モノレールとの間で協議した調査区間について、平成21年度から2～3年間で環境調査や測量調査を実施しています。延長に伴う建設費用は概算で396億円が見込まれており、駅舎や軌道桁、柱等のインフラ部の整備費用については、原則として県道は県、市道は各市の道路管理者が負担することとされています。

○新車両導入

現在、ゆいレールは12編成(24両)体制で運行していますが、平成22年度から、13編成目となる新車両を導入することとしています。これは、開業以来初の新車両導入で、優先席、つり手、縦手すりなどを増設し、優先席付近のつり手位置を低くするなど、バリアフリー化を強化したものです。また、火災対策で車両間の貫通路に扉を設け、運転状況記録装置も新たに導入するなど、安全対策の強化を図りつつ、乗客輸送力を確保しています。このほか、新車両は、車内のデザインや構造が現在の車両と微妙に異なっていますので、もしも見かけたらぜひ違いを見比べてみてください。



クレーンで吊られる新車両



新車両のシートや手すり



貫通路の扉と優先席

★本誌タイトルについて★

群星(むりぶし)とは、沖縄の方言で「昂星(すばる)」のことで「ぶりぶし」、「むるぶし」とも呼ばれています。